

乳児期の母性的態度と母親行動に影響する要因について

On Factors Influencing Maternal Attitudes
and Maternal Behaviors in Infancy大 薮 泰
Yasushi Ohyabu

乳児に対する母親の態度と行動には、様々な要因が影響している。たとえば、筆者が以前に、本紀要で論じたように、出産直後からの長期に及ぶ母子分離体験、あるいは、出産直後の母子接触体験が、ある条件下では母親行動に影響することが知られている（大薮，1984；1985）。また、自発的に産前教育プログラムに参加した母親には、虐待や無視といった母親行動の障害が少ないことが知られているが（Egeland & Vaughn, 1981）、乳児の出産以前から存在する母親のパーソナリティ特性や過去経験が、出産後の母親行動に影響することも容易に想像できよう。たとえば、11歳以前に生じた父親との別離体験、妊娠および妊娠による身体的変化に対する否定的態度、妊娠36週までに胎児を一個の人間として認知できないことは、母親の子どもに対する愛情の開始を遅らせる要因としてはたらいっている（Robson & Kumar, 1980）。また、乳児の性別、出生順位、家族の社会経済階層、乳児の行動傾向、子どもとの接触経験の多寡、夫婦関係、母親の教育水準といった要因が、母親的な感情と行動に影響するとの指摘もみられている（Leiderman & Seashore, 1975; Egeland & Vaughn, 1981; Belsky, 1984）。

さて、初めて母親になった女性が、産後の数カ月の間に一時的な抑鬱状態を体験することは珍しいことではない。そして、その産後抑鬱が、妊娠中から持続していることもある。こうした母親の抑鬱状態という情動障害は、いったい母親行動にいかなる影響をあたえているのであろうか。そして、その結果、子どもたちの精神発達がどのような影響を受けることになるのであろうか。こうした問題を取り上げる研究が、最近かなり多くみられるようになってきている。

たとえば、妊娠時の気分は産後の気分を予測し（Feldman & Nash, 1984）、妊娠中の胎児に対する感情は、産後のアタッチメントと密接に関連している（Leifer, 1977）ことが知られている。同様に、最近のFieldらの研究（Field, 1984; Field et al., 1985）でも、妊娠中に抑鬱傾向があった母親は、抑鬱傾向のない母親と比較して、産後3カ月と5カ月の時点で、否定的な顔の表情が多く、発声や乳児を見たり触ったりする時間が少ないことが見出されている。また、結婚生活の難しさとか、子どもを持つことに対するアンビヴァレントな感情といった妊娠中の問題を基準に分類された抑鬱女性と非抑鬱女性とを比較すると、産後の母親行動に違いがあることも指摘されている（Field et al., 1985）。そして、Livingood, (1983) は、抑鬱的な母親では、無条件の肯定的関心、ロッキング行動の持続性、乳児を見つめる時間が少ないことを見出している。

このように母親の抑鬱傾向が、産後の母親行動に影響することは多くの研究が明らかにしてきている。しかし、妊娠中の気分と、産後期の気分とが母親行動におよぼす相対的な影響力の強さについては、今だに不明なままである。また、気分以外の変数との比較も十分になされているとはいえない。

そこで次に、中流階層以上の家庭の母親の妊娠中と産後に生じた軽度な抑鬱傾向あるいは不快気分（dysphoria）やその他の変数（妊娠欲求、子どもとの過去経験、身体的健康感、社会的サポート、乳児の状態）と、母性的態度（母親としての適切感、養育に対する感情、乳児に対するアタッチメント感情）や母親行動（愛情表現的接触、養育行動、乳児への声かけ、乳児を見る、乳児を揺する）

との関連を検討しているFlemingら(1988)の研究を見ていきたい。

[Fleming et al., (1988)の研究]

対象とされた母親は、英語を話す68名の初産婦であり、結婚・同棲あるいは長期間のprimaryな性関係を有している。過去にも現在にも重度の精神的あるいは産科学的既往はない。平均年齢は、28.0歳(SD=5.3)である。

母親との面接は、妊娠9カ月、生後3日(2日と4日のときもある)、生後1カ月、生後3カ月、生後16カ月であり、16カ月を除いた各時期に質問紙が実施されている。乳児をあやしたり、授乳している母親のビデオ記録は、生後3日、1カ月、3カ月で撮影されている。

<質問紙の項目>

・背景となる情報

妊娠欲求(desire for pregnancy : 3 questions relating to overall feelings about pregnancy, abortion, etc.)

子どもとの過去経験(prior experience with children : 5 questions relating to experience with babies, babysitting, etc.)

・気分の状態(mood: 10 items such as anxious, depressed, mood swings, elated)

・身体的健康感

身体的健康感(physical feelings: backache, headache, cramps, muscle aches, constipation)

疲労感 (feelings of tiredness : fatigue, naps, stay home, sleepy, energetic)

・社会的サポート

夫やパートナーに対する感情

(feelings toward husband / partner : 7 items, such as husband gets on nerves, feel closer to husband)

母親に対する感情(feelings toward mother : 4 items, such as try to avoid time with mother, mother source of support)

・乳児の状態

母親による乳児の評定(maternal ratings of infant: 7 items, Broussard & Hartner, 1970)

・母性的態度

母親としての適切性の感情

(feelings of adequacy as a mother : 9 items, such as a lot learn, never comfortable, certain will be a good feel mother)

養育に対する感情(feelings about childcare or caretaking: 4 items, such as childcare repetitive and boring, enjoy caretaking)

乳児に対するアタッチメント感情

(feelings of attachment to the baby : 3 items, such as thinking of baby makes me feel good, talk a lot about baby)

<ビデオによる行動分析項目>

(ビデオ記録の最初の10分間の分析)

母親行動

・愛情表現的接触(affectionate contact: stroking, poking, or hugging infants' head or body)

・養育行動 (caretaking activities: burping baby, wiping its face, adjusting the blanket, or adjusting baby's position)

・乳児への声かけ(vocalize to infant: talking, singing, or otherwise vocalizing to infant)

・乳児を見る(visual orientation: looking at infant)

・乳児を揺する(kinesthetic: rocking or jiggling infant)

乳児行動

・泣き声(cry)

・泣き声以外の発声(noncry vocalization : precry, babble, gurgle)

・粗大な腕と脚の運動(large arm and leg movement)

＜生後16カ月での観察＞

家庭における、日常的な遊び場面での乳児と母親とのインタラクションが観察。ビデオは用いられていない。観察時間は20分。15秒間毎に行動の有無が記録。

母親行動

- ・肯定的な声かけ(positive verbal: praise, approval, laugh, verbal, affection)
- ・肯定的な接触(positive contact: hug, stroke, pat, kiss, hold)
- ・教示的(instructional: help, teach, give/show object)
- ・否定的な発声(negative verbal: disapproval/scold, restrain, punish, command)
- ・中立的(neutral: statement, question, look at)
- ・養育行動(caretaking: feed, wipe face, change clothes)

乳児行動

- ・肯定的(positive: help, give/show object, physical affection, verbal affection)
- ・否定的(negative: demand, negative verbal, cry, whine, fuss, physical aggression)
- ・中立的(neutral: verbalize, request for attention, request for caretaking, request other, look at mother, approach)
- ・しがみつき(clinging)

次に、結果について紹介してみたい。

(1) 母親の妊娠期および産後の抑鬱気分と母性的態度との関係

・母親としての適切感

妊娠期と産後の抑鬱気分は、いずれも生後1カ月と3カ月時における母親としての適切感を弱めている。しかし、両者を比較すれば、産後の気分との関係のほうが強かった。

・養育に対する感情

妊娠期の気分とは関係が見られなかったが、産後の抑鬱気分は、生後1カ月でも3カ月でも養育感情を弱めている。

・母親のアタッチメント感情

母親の気分とは、無関係であった。

(2) 母親の妊娠期および産後の抑鬱気分と母親行動との関係

愛情表現的接触にだけ統計的有意差がみられ、その他の母親行動には有意差がみられなかった。

なお、乳房授乳の母親だけが分析の対象にされている。

・愛情表現的接触(affectionate contact)

生後3日では、妊娠期でも産後期でも抑鬱群と非抑鬱群とで、有意な差はなかった。この時点では、6名の母親に抑鬱症状がみられており、うち3名には妊娠期から抑鬱症状があった。

生後1カ月では、妊娠期でも産後期でも抑鬱群に分類された母親の愛情表現的接触が有意に少なかった。11名の母親に抑鬱症状があり、うち6名には妊娠期から抑鬱症状があった。

生後3カ月では、妊娠期の抑鬱群の愛情表現的接触は有意に少なく、3カ月時点での抑鬱群でも愛情表現的接触が少ない傾向がみられた。8名の母親に抑鬱症状があり、うち5名には妊娠期から抑鬱症状があった。また、抑鬱群では、生後3カ月までに、乳房授乳から哺乳瓶授乳に移行する母親が有意に多くみられている。

(3) 母子インタラクションの質：伴起性の分析

上記のように、産後抑鬱症の母親では、生後1カ月と3カ月で、愛情表現的接触が少なかったが、伴起的応答のパターンにも違いがみられた。分析対象は、乳房授乳の母親だけ。

・生後1カ月：非抑鬱群の母親は、泣いている乳児に養育行動を多くとり、発声に対しても声かけと養育行動で応答することが多い。特徴的なことは、乳児の発声の後では、声かけや養育行動が多くなることであり、愛情表現的接触とか乳児を見る行動はそれ以外の時期で高いレベルで生じていることである。

一方、抑鬱群の母親では、乳児の泣き声や発声の後での養育行動は多いが、声かけで応答することは少なかった。抑鬱群の声かけは、乳児の四肢の運動に対して生じることが多かった。

- ・生後3カ月：乳房授乳をしている抑鬱群の母親が少ないため、統計的分析は不可能。非抑鬱群の母親の結果は、1カ月時のものと殆ど同じである。

(4) 母性的態度に影響する抑鬱気分以外の要因

- ・母親としての適切感

過去の子どもの経験は、妊娠期、1カ月、3カ月時の母親としての適切感を高めた。産後の要因では、1カ月時において、疲労感が母親としての適切感を弱めた。3カ月時では、適切感の強い母親は、取り扱いが難しくない乳児であると報告している。

- ・養育に対する感情

妊娠期における肯定的な養育感情は、子どもとの過去経験、夫との良い関係、疲労感や身体的不快感の少なさと有意な関係があった。しかし、こうした産前の要因は、産後の養育感情とは関係がなかった。1カ月と3カ月時における肯定的養育感情は、1カ月時における夫との良い関係と関係していた。また、3カ月時の肯定的養育感情は、乳児の健康状態とも関係していた。

- ・母親のアタッチメント感情

妊娠に対してアンビヴァレントであり、子どもとの経験が少なかった女性は、3カ月時でのみ、アタッチメント感情が弱かった。

産後の要因は、産後のアタッチメント感情と関係なかった。

(5) 妊娠期と産後の抑鬱気分が16カ月時の母子インタラクションに及ぼす影響

影響はなかった。16カ月の時点では、母親の抑鬱気分は測定されていないので、この時点での抑鬱が母親と子どもの行動にあたえる影響については不明である。

以上の結果のうち、いくつかの重要な論点を、Flemingらの考察にもとづいて、整理していくことにしたい。

初めに、妊娠期および産後期の抑鬱気分あるいは不快感が、生後1カ月と3カ月時での「母親としての適切感」と「養育に対する感情」を低下

させたが、「母親のアタッチメント感情」（いずれも母性的態度と分類されている）とは関係しなかった点から見ていきたい。この研究で対象にされたような経済的に恵まれた中流階層以上の健康な女性では、乳児へのアタッチメントが比較的高く、尚かつ、そのアタッチメントレベルの変動が少なく報告されやすい。Flemingらは、抑鬱気分とアタッチメント感情とに関連性が見出されなかったのは、そうした社会経済階層の女性を対象としたためであり、軽度の抑鬱気分ではアタッチメント感情に違いを生じさせなかったのであろうとみなしている。逆にいえば、中流階層以下の階層を対象にした場合には、母親のアタッチメント感情にも影響する可能性があると考えられよう。

同様に、母親行動についてみると、妊娠期と産後期の抑鬱気分は、「愛情表現的接触」を低下させるが、「養育行動」を低下させることはない点が興味深い。この結果は、母親の抑鬱が、認知的によりコントロールしやすい手段的(instrumental)活動を低下させず、母子間の情動的・社会的な関係に悪影響を及ぼすとするLivingood et al., (1983)の観察と一致するとFlemingらはみなしている。この「愛情表現的接触」は、乳児の頭や身体を手でなでたり、指先で触ったり、抱きしめる行動であり、いずれもアタッチメント行動とこれまで分類されてきたものである。

すると、母親の抑鬱気分は、「赤ちゃんのことを考えるのは楽しい」といった質問項目によって測定されるアタッチメント感情には影響しないが、愛情表現的接触行動（アタッチメント行動）は低下させたことになる。したがって、Flemingらのアタッチメント感情と、従来から用いられているアタッチメント行動とは必ずしも同一のものではない。母親の抑鬱気分は、アタッチメント感情を測定しようとする質問紙の結果には反映されにくく、身体的な接触形態を取るアタッチメント行動のほうに敏感に反映されるものようである。

上記の論述との関連で、もうひとつ興味深い結果は、妊娠期と産褥期の抑鬱気分は、産褥期（生後3日）の乳児と母親との相互作用には影響しないことである。これは、初産で未経験なこの時期の母親は、気分の如何にかかわらず、乳児との交流時間の殆どを、乳児が乳首に適切に吸いつくよ

うにすることや、その他の養育行動に費やしており、他方、乳児と一緒にくつろいだり、愛情表現的な接触行動をすることが少ないためである。

つまり、先述したように、この時期の母親行動の大部分が、母親の抑鬱気分によって低下させられることのない養育行動によって占められているためなのである。

次に、抑鬱気分の多寡によって違いが現われたのは、乳児の発声(both cry or noncry)に対する母親の伴起的行動である。つまり、非抑鬱的な母親は、乳児の発声に対し、発声と養育行動で応答するのに、抑鬱的な母親は、乳児の泣きには養育行動で応答するけれども、泣きではない発声には声をかけて応答することが少ないのである。母親の乳児に対する声かけは、愛情表現的行動ともアタッチメント行動ともいえる行動の一つであるといえよう。そのように考えると、抑鬱群の母親のこの発声行動の少なさは、先述した愛情表現的な接触の少なさと共通した行動であると考えられる。抑鬱的な母親では、このように愛情表現的な行動の表出が全般的に困難になることが推測できるのである。

子どもとの過去経験は、産前要因としては最も顕著な効果をもつ要因であった。つまり、子どもとの過去経験があると、妊娠期、1カ月期、3カ月期の母親としての適切感、妊娠期における養育感情、また3カ月期のアタッチメント感情をいずれも高めたのである。Flemingらによれば、子どもとの過去経験は、母親の気分状態に影響する主要な先行因子であることがすでに見出されているけれども、ここで得られたデータからも、過去の専門的な子どもとの経験やベビーシッター経験は、抑鬱気分の軽減に役立つかもしれないことが示唆される。Flemingらによれば、それは、おそらく産後初期の親行動と関連するストレスの効果を減らしてしまうことによるのであらうとされている。そして、もし、子どもとの過去経験と妊娠中の気分が母親の態度と密接な関係を有するなら、妊娠中の気分を改善したり、子どもとの経験を提供したりするよう計画された活動は、母親の態度と応答性を改善することが可能であらうと論じている。我が国では、少子化傾向に伴い未婚女性の子どもの接触体験が乏しくなっているが、今後、こう

した未婚女性や妊娠の心理的健康を保障するような母子保健援助計画が必要になることが予測される。

母親行動に対する社会的サポートの重要性については、いくつかの研究によってすでに指摘されている(Belsky, 1981; Power & Parke, 1984)。この研究でも、夫との関係が、妊娠期・産後期ともに、母親の養育感情と関係することが知られたのである。最初の子どもの誕生に伴って、今までの夫婦関係という2者関係の中に、非常に養育の手間がかかる乳児が入り込むことになるが、それは家族のストレスを増大させることになる(Grossman et al., 1980)。

そのとき、夫との親密な関係が子どもの誕生により低下したり(Feldman & Nash, 1984)、家事の分担が夫婦関係のありかたを決定するのに重要な役割を果たしているような場合(Belsky, 1984)には、そのストレスはより大きなものとなることが推測できよう。

以上のように、経済的に恵まれた母親たちの軽度の抑鬱気分や、その他のいくつかの要因は、乳児期初期の母性的態度と母親行動を低下させることが知られたが、幸いにして、そうした影響は16カ月の時点では母親の行動にも子どもの行動にも明白な形では現われなかった。しかし、経済的に恵まれない家庭、母親の抑鬱気分が重度なものであるとき、また社会的サポートがネガティブに働く場合などでは、そうした影響が長期にわたって持続する可能性は十分に残されている。先にも触れたように、これからの母子保健活動や家族福祉活動では、こうした母親の精神的健康の維持をどう保障していくのかということがますます重要な課題となるように思われる。

(1990. 1. 27 受理)

文 献

- (1) Belsky, J. : Early human experience: A family perspective. *Developmental Psychology*, 17, 3- 23, 1981.
- (2) Belsky, J. : The determinants of parenting: A process model. *Child Development*, 55, 83- 96, 1984.
- (3) Broussard, E., & Hartner, M.: Maternal pe-

- reception of the neonate as related to development. *Child Psychiatry and Human Development*, 1, 16-25, 1970.
- (4) Egeland, B., & Vaughn, B.: Failure of "bond formation" as a cause of abuse, neglect, and maltreatment. *American Journal of Orthopsychiatry*, 51, 78-84, 1981.
 - (5) Feldman, S. S., & Nash, S. C. The transition from expectancy to parenthood: Impact of the firstborn on men and women. *Sex Roles*, 11, 61-78, 1984.
 - (6) Field, T.: Early interactions between infants and their postpartum depressed mothers. *Infant Behavior and Development*, 7, 527-532, 1984.
 - (7) Field, T., Sandberg, D., Garcia, R., Vega-Lahr, N., Goldstein, S., & Guy, L.: Pregnancy problems, postpartum depression, and early mother-infant interactions. *Developmental Psychology*, 21, 1152-1156, 1985.
 - (8) Fleming, A. S., Ruble, D. N., Flett, G. L., & Shaul, D. L.: Postpartum adjustment in first-time mothers: Relations between mood, maternal attitudes, and mother-infant interactions. *Developmental Psychology*, 24, 71-81, 1988.
 - (9) Grossman, F.K., Eichler, L.S., & Winickoff, S.A.: *Pregnancy, birth, and parenthood: Adaptations of mothers, fathers, and infants*. San Francisco, Jossey-Bass, 1980.
 - (10) Leiderman, P. H., & Seashore, M. J.: Mother-infant separation: Some delayed consequences. In Ciba Foundation Symposium, No. 33. *Parent-infant interaction*. Elsevier, 1975.
 - (11) Leifer, M.: Psychological changes accompanying pregnancy and motherhood. *Genetic Psychology Monographs*, 95, 55-96, 1977.
 - (12) Livingood, A. B., Daen, P., & Smith, B. D.: The depressed mother as a source of stimulation for her infant. *Journal of Clinical Psychology*, 39, 369-375, 1983.
 - (13) 大藪 泰: 出産直後の母子接触と「母と子の絆」Ⅰ, 長野大学紀要, 5, 3, 27-42, 1984.
 - (14) 大藪 泰: 出産直後の母子接触と「母と子の絆」Ⅱ, 長野大学紀要, 7, 1, 31-44, 1985.
 - (15) Power, T., & Parke, R.: Social network factors and the transition to parenthood. *Sex Roles*, 10, 949-972, 1984.
 - (16) Robson, K. M., & Kumar, R.: Delayed onset of maternal affection after childbirth. *British Journal of Psychiatry*, 136, 347-353, 1980.